

平成 20 年度 舢倉島夏期総合診療実施報告書

平成 20 年 8 月 20 日
舢倉診療所長 大久保優香

平成 20 年度舢倉島夏期総合診療は石川県、輪島市の共催により平成 20 年 8 月 2 日（土）に実施されました。天候悪化のため予定を短縮して日帰りでの実施となりましたが、関係者の方々のご尽力により無事に終了致しました。お力添えをいただいた皆様に深く感謝するとともに、ここに本年度の実施状況を報告致します。

1. 趣旨

専門医療の機会に恵まれない離島の住民に対して「耳鼻咽喉科、眼科、外科、内科、整形外科」診療を実施し、舢倉島住民の保健医療の向上を図る。

2. 日程

平成 20 年 8 月 2 日（土）午前 11 時過ぎ～午後 2 時半頃（眼科児童健診は午前 11 時より実施）

3. 診療科目、場所

石川県輪島市海士町所属舢倉島出邑山 1-4 舢倉島総合開発センター

玄関ロビー：受付

診察室：外科（上部消化管内視鏡）

検査室：レントゲン撮影、整形外科、内科（胸部レントゲン写真読影）

コンピュータ室：耳鼻咽喉科

保育室 1：眼科

保育室 2：内科

4. 診療従事者

耳鼻咽喉科	小森貴	医師（小森耳鼻咽喉科医院）
	中村和泉	看護師（県立中央病院）
眼科	山村敏明	医師（やまむら眼科医院）
	飛岡 香	保健師（輪島市役所）
外科	山本大輔	医師（市立輪島病院）
	小島久広	看護師（市立輪島病院）
	酒井しのぶ	看護師（県立中央病院）
内科	上田章人	医師（慶信会記念病院）
	廣谷太一	医師（市立輪島病院）
	川端美晴	看護師（県立中央病院）
	古田正史	放射線技師（市立輪島病院）
整形外科	庭田満之	医師（公立松任石川中央病院）
	川邊美由紀	看護師（県立中央病院）
受付	野崎智広	（県庁医療対策課）
	藤抜貴久	（県庁医療対策課）
	沢井章悟	（県庁医療対策課）
雑務	大久保優香	医師（舢倉診療所）

5. 受診状況

日時	耳鼻咽喉科	眼科	外科(胃カメラ)	内科	整形外科	総受診件数
8月2日(土) (人)	15	28	7	20	20	90
8月3日(日) (人)	10					
合計(人)	25(※1)	28(※2)	7(※3)	20(※4)	20	100

- ※1 悪天候のため8月3日に定期船が欠航になると予想されたため、耳鼻咽喉科診療のみ2日間実施し、他の診療は1日目のみで終了した。2日目の受診数には再診2名を含む。
- ※2 児童健診4名含まれている。眼底検査の希望者は46名であったが、予定を中止しすべて細隙灯検査のみに変更となった。また施行予定であった巡回診療は中止となった。
- ※3 実際には2日間併せて18名の受診希望者がいたが、総合診療の予定変更に伴って時間的に検査が可能であると考えられた7名の検査のみ実施し、他の受診希望者に関しては検査が出来なくなった旨を連絡し、今回の検査は中止とした。
- ※4 このうち、胸部レントゲン撮影を14名に実施した。

各科の受診件数を上記に示した。予定通りの日程で施行できなかったため昨年度との比較は難しいと考えられるが、2日間実施した耳鼻咽喉科に関しては受診件数はほぼ例年通りであった。

眼科は、巡回診療が実施できなかったことにより受診件数が大幅に減少したものと考えられる。昨年度に引き続き、舳倉保育所に通う児童4人(4歳～6歳)に眼科検診を実施した。

胃カメラは、今まで総合診療では咽頭麻酔のみで実施してきたことにより、「鎮静剤の注射をして欲しい」との声や、「7月のアワビ・サザエ漁解禁の前に検査を受けてきた」といった島民の方も多く、受診数の減少につながったと考えられる。

内科の受診件数は昨年度とほぼ変わりなかった。

今年度初めて実施した整形外科診療に関しては、事前に受診者数把握のため受診希望を確認したところ、50名程度の受診希望があった。今回予定通りに診療を実施できていればさらに多数の受診があったものと思われる。

図1に男女別受診件数を示した。女性は男性の約3倍の受診件数であり、外科(胃カメラ)以外の科で女性が男性を上回った。この傾向は数年来続くもので、最大の原因は寡婦も含め女性の島民が多いことが原因であると考えられるが、一方で男性の健康に対する意識の低さを反映していると考えられる。また、総合診療を受診する島民の顔ぶれは毎年ほぼ同じであることから考えても、今後特に男性の島民を中心に総合診療への受診を呼びかけていく必要があると考えられる。

図2には年齢別の受診件数を示した。約半数が70歳代で、60歳代と70歳代を併せると受診件数の8割近くにもものぼることより、高齢の島民の一部は健康に高い関心を寄せていると考えられる。その一方で、日常診療においても診療所を受診する機会の少ない40歳代・50歳代の島民に対しては診療所便りなどを通じて、食生活・生活習慣等について考えてもらう機会を作り、今後の健康増進・疾病予防に努めていく必要があると思われる。

図1 平成20年度 各科男女別受診件数

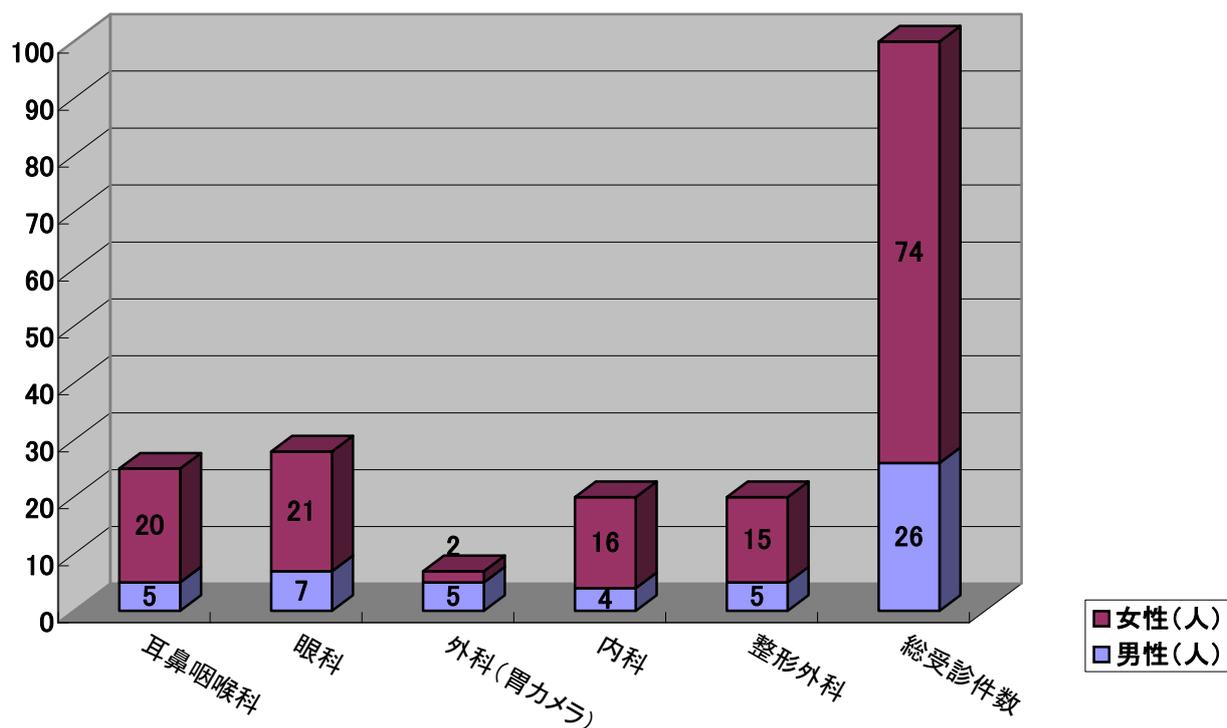
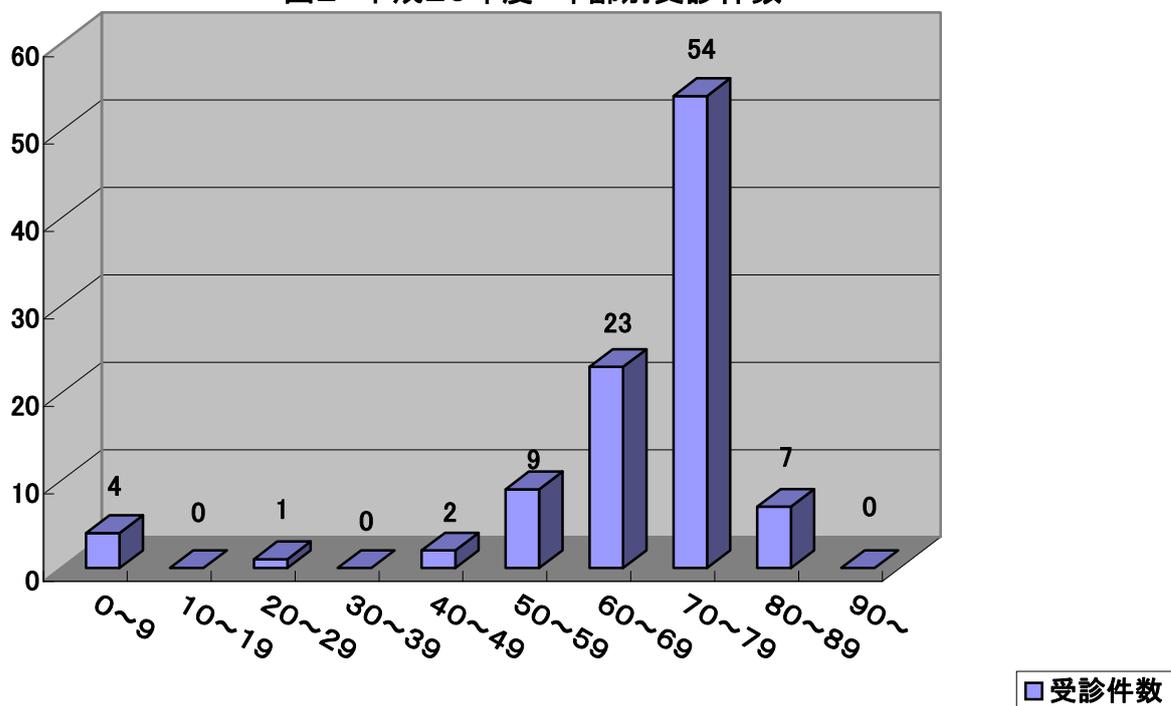


図2 平成20年度 年齢別受診件数



6. 各科診療内容

<耳鼻咽喉科>

毎年この総合診療に参加していただいている小森医師に今年も耳鼻咽喉科診療を行っていただいた。島民の方からもすっかりお馴染みで、診療室では和気あいあいとした雰囲気の中、会話が弾みながらの診療が行われていた。診療内容は例年通り喉頭ファイバーでの咽喉頭の観察、および鼻腔内、耳腔内の観察等

である。島民の女性のほとんどは海女であるため、耳が痛い、聞こえにくい、鼻がつまるなどの訴えは特に多くみられる。このことから、年に1回の耳鼻咽喉科診療は島民にとって非常に重要なものとなっており、その診察風景からも多くの島民が小森先生に信頼を寄せている様子がよくうかがえた。

25名の受検者の内、何らかの所見を認めたのは10名(40%)であり、その内処方が必要としたのは5名(20%)であった。疾患の内訳は耳垢塞栓、急性中耳炎、外耳道膿瘍、慢性副鼻腔炎急性増悪、耳介軟骨膜炎、喉頭蓋嚢胞などであり、もっとも重症であった耳介軟骨膜炎の方はステロイド内服と抗菌薬の静注にて症状が改善した。本年度はオーディオメーターを用いた聴力検査の対象者はいなかった。

小森医師には天候の悪い中2日目も診療していただき、島民・診療所長共々本当にありがたいことであった。



小森医師

<眼科>

今年度は、天候の関係で予定していた巡回診療と予約制の眼底検査は施行できず、細隙灯検査のみの施行となった。また、児童眼科健診は昨年度に引き続き、午前11時より保育所に通う児童4人に対し行われた。今回の児童眼科検診においては6歳の女兒が左角膜びらんと診断され、抗菌薬を処方された。

細隙灯検査では、白内障の手術適応と判断されたのは1名、炎症性疾患にて抗菌薬を処方されたのが5名であった。糖尿病性網膜症の悪化した患者は認められなかった。白内障は両側・片側合せて10名(35.7%)にみられ、眼内レンズ装着者(両側・片側合せて)6名(21.4%)と合せると15名(53.6%)にのぼった。これは島の高齢化が確実に進んでいることを示していると考えられる。

島民の中には糖尿病・高血圧症の患者も多く、毎年の眼科診療受診を呼びかけているが、今回は予定変更に伴い、検診の時間も短縮されたため受診できなかった島民も多かったと思われる。来年度以降、さらに受診の呼びかけをしていく必要があると感じた。



山村医師

<外科(胃カメラ)>

胃カメラは長年総合診療に参加して下さっている金沢有松病院の高島医師に依頼し、参加される予定であったが事情により参加できなくなってしまわれたため、急遽、市立輪島病院の山本医師にお願いすることとなった。そのため、準備する物品の変更や、スコープの洗浄作業の手順確認等の問題が生じ、急遽市

立輪島病院の内視鏡専任看護師にも参加していただき、医師1名、看護師2名の体制で実施した。

元々18名の受診予約があったが、総合診療の実施時間の短縮に伴い1日目の受診予約者14名のうち7名のみを検査を施行した。

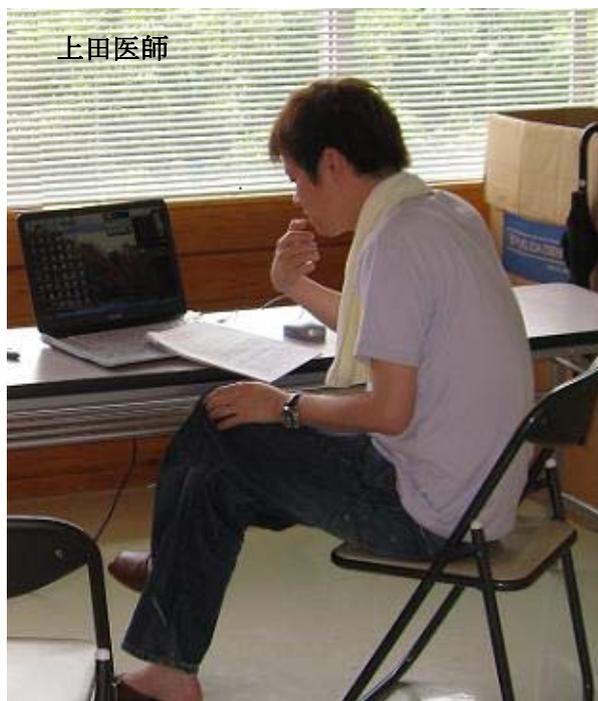
7名のうち、特に加療が必要な疾患は認められなかった。2名に胃生検を実施し、結果はいずれも良性であった。

胃カメラは物品の準備、スコープの確認など診療所長としても慣れない作業が多く、準備のもっとも大変な検査であるが、多くの方々にご協力いただき円滑に検査を進めることができた。



<内科>

内科では主に胸部レントゲン写真の読影を慶信会記念病院の上田医師にお願いし、一般診療を市立輪島病院の廣谷医師に担当していただき、普段は受けることの少ない心電図、胸部レントゲン撮影（希望者のみ）、検尿などの各検査を実施した。



胸部レントゲン撮影を実施した14名の内科受診者のうち、異常を認めなかったのが4名、心拡大・喫煙による慢性気管支炎などで要経過観察となったのが8名、精査・受診が必要であると判断されたのは2名であった。この2名はともに細菌性肺炎疑いであり、1名は後日輪島病院に入院となり、抗菌薬点滴にて症状が改善し退院となった。もう1名は肺炎を繰り返しており、更なる精査が必要とのことで、後日県立中央病院を受診し、気管支鏡検査を受ける予定である。

胸部レントゲン写真の読影については、昨年4月よりCR化が整備され、フィルムレスとなったため診察室の専用モニターで詳細に読影することが可能となった。しかし、今回の総合診療においては診察室が

上部消化管内視鏡検査に使用されており、かつモニターも移動できないため撮影後レントゲン室でそのまま読影していただいた。撮影した画像は JPEG データとして USB メモリーに移して、後日上田医師より詳細な読影結果のレポートを送って頂いた。

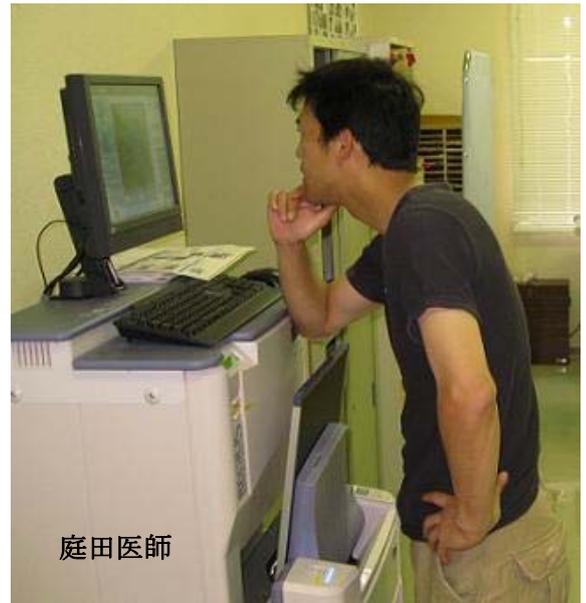
その他、検尿では潜血陽性の方が数人おられたが、いずれも無症状であり、数ヵ月後に再検査予定である。心電図は途中で機械トラブルのため、記録紙に印刷できず廣谷医師にその場で確認していただいたが、明らかな異常を認めた人はいなかった。また、内科診察で右側胸部の痛みと同部位の皮疹を認めた方がいたため、带状疱疹の疑いにて抗ウイルス薬を処方したところ内服にて症状が改善した。

<整形外科>

本年度初めて開始した整形外科診療は、公立松任石川中央病院の庭田医師にお願いした。島民の高齢化が進み、肩・腰・膝などの痛みを訴える島民が多いにもかかわらず、各個人に的確な治療及び生活上のアドバイスが行えていないと思われるため実施したものである。

今回はレントゲン室で事前に関診を行い、その場でレントゲン撮影を施行して一人一人の症状にあわせた生活上の注意をアドバイスしていただいた。

レントゲン室の前に長蛇の列が出来るほどの盛況で、多くの島民の方が受診して下さった。受診者 20 名のうち、ほとんどの患者が変形性腰椎症、変形性膝関節症、椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、胸椎圧迫骨折などの異常を認め、中には手術適応と判断された方もいた。普段の診療では技術的に限界もあり、今回のアドバイスを元に今後島民の方への診療にあたっていきたい。また、今後一層高齢化が進み、整形外科的な訴えが増加していくと思われるので個人的な要望ではあるが、今後も継続して診療していただければと思っている。



庭田医師

7. 反省点

本年度は時間の都合上反省会を実施することが出来なかった。所長としての私見であるが、来年度以降の実施に際して参考にして頂ければと思い書き留めておく。

- ・ 今回は都合により急遽、高島医師が参加できなくなったため、胃カメラの補助につく看護師を直前で増員する結果となった。
- ・ →看護師の人選は県庁医療対策課にお願いしているが、その際に内視鏡検査に 2 人の看護師が割けるようお願いしておくことが必要。またその内 1 人は内視鏡検査に携わっている看護師であることが必須である。もし看護師 1 人しか確保できない場合は、必ず内視鏡検査に携わっている看護師を選んでいただくようお願いしておく。
- ・ レントゲンのモニターを移動できないため、整形外科診療と胸部レントゲンの読影が同じ部屋で行われる結果となった。

→輪島病院の事務の方にも相談したが、モニターの移動にはかなりの金額がかかるとのことなので、整形外科と胸部レントゲンの読影が同じ部屋で行われるのは結果的に仕方ない部分もあると思われる。患者さんのプライバシーも考慮すると、来年度以降もし可能ならば、整形外科診療と

胸部レントゲン読影を時間制で行うなどの配慮が必要かもしれない。また、レントゲン室には冷房がないため、隣の耳鼻咽喉科の診察室との間の扉を空けて風を送っていたが、もしできればクーラーの設置、輪島病院から冷風機等を借用するなどの環境整備が必要であると思われた。

- 本年度は、予定変更のため受付に島民の方が殺到し、各受付で一時的にカルテが行方不明になるなどの混乱が生じてしまった。
→スムーズに受付を行うためにも、来年度のためにマニュアルを作成しておく必要がある。また、複数の診療科を受診する方の場合、診療が終了した科のカルテをその診療室で回収する必要がある。(自分でカルテをどこかに持っていく患者が多くみられたため。)
- 予定変更のため、昼食が各個人で手が空いた時間に民宿「つかさ」に食べに行っていたという形になってしまった。診療が忙しく昼食を取れない方もおられた。
→結果的に民宿までの往復する時間が無駄となってしまった。総合診療の予定変更が判明した朝の時点で民宿に連絡し、昼食をおにぎり等診療所に運べる物に変更しておくべきであったかもしれない。

8. 総括

舳倉島総合診療は今年で26年目を迎えた。石川県、輪島市の協力とともに、総合診療を支えてきてくださった先生方やスタッフの方々の熱意とご尽力により現在まで島民の健康管理という重要な役割を担っている。今回は新たに整形外科診療も行われ、短時間ではあったが有意義な総合診療となったと思う。島民の高齢化が進むにしたがって、心血管イベントの発生予防や悪性疾患の早期発見が重要な課題となっている。この総合診療を通して、島民の方々が自らの健康に対して意識する契機となってもらえれば幸いである。また診療所で働く新米医師という立場からすると、日常診療だけではカバーできない各専門科の診断・治療指針や患者指導から学ばせていただくことも多く、この総合診療が恵まれたバックアップ体制の1つであると実感させていただいた。

9. 謝辞

今年度は悪天候のため、わずか半日となりましたが、舳倉島総合診療を無事終えることができました。今回の総合診療を行うにあたり、多くの方々にご尽力いただきました。本当にありがとうございました。今後とも舳倉島島民の健康増進のために努力していく所存ですのでご支援の程宜しく願いいたします。

舳倉診療所長 大久保優香



診療スタッフ集合写真（2008/8/2 舳倉島総合開発センター前にて）

お詫び：短時間の総合診療で、昼食も流れ作業的に手の空いた方から順番に行って頂いたために、小森先生が写真に写っていません。ということで、翌日(8/3)に帰られた小森先生うちの主人と私です。

